

ともにつくる くらしと未来

いわて生活協同組合

社会活動・環境活動報告書

2020年度の取り組み

Contents

特集 2020年ビジョン到達点と2030年ビジョン

第1章 復興支援活動

第4章 組合員の活動

第2章 食の取り組み

第5章 くらしを支える事業

第3章 社会貢献活動

第6章 環境活動

Contents — 目次 —

特集 2020年ビジョン到達点と
2030年ビジョン 3

〈社会活動報告〉

第1章 復興支援活動
東日本大震災被災地支援 5

第2章 食の取り組み
地産地消、食の安全への取り組み 7
顔とくらしのみえる「産直」運動 9

第3章 社会貢献活動
だれもが安心して暮らせる地域・社会に 11

第4章 組合員の活動
くらし、平和を守る運動、子育て応援、福祉活動 ... 13

第5章 くらしを支える事業
店舗事業、共同購入事業、エネルギー事業 15
共済事業、葬祭事業、福祉事業 17

〈環境活動報告〉

第6章 環境活動
環境理念 環境方針 19
CO₂ 排出量削減の取り組み 20
原子力発電に依存しない事業 21
廃棄物の削減・リサイクルの取り組み 22
組合員活動の取り組み 23
環境に配慮した商品の利用普及 24
環境活動のあゆみ 25

いわて生協の概要 26

協同組合について

【定義】協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

【価値】協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。
※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは（再訂版）」より引用。

編集方針

この報告書は、いわて生協が基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。いわて生協「2020年ビジョン」で掲げる「助けあい、支えあい、ともにつくるくらしの安心」の実現に向けた取り組みを、活動の一部ではありますがお伝えします。

■対象期間

2020年度（2020年3月21日～2021年3月20日）の事業・活動を中心に報告していますが、一部2021年度の情報や将来の目標も含まれます。

■発行 2021年6月

■HPアドレス

<https://www.iwate.coop>
本報告書はホームページに掲載しています。

■お問い合わせ先

いわて生活協同組合
〒020-0690 岩手県滝沢市土沢 220 番地 3
TEL.019-687-1321 (代)

ごあいさつ

「ともにつくる くらしと未来」をめざして

2020年度は、「いわて生協 2020年ビジョン」の最終年度として、その実現と、コロナ禍で大きく変わったくらしを支える事業をすすめてまいりました。また、「いわて生協誕生 30周年・地域生協誕生 50周年」として取り組み、コロナ下で実施できなかった記念事業もございましたが、組合員数も「2020年ビジョン」で掲げた「県民世帯の過半数」を達成することができました。

いま世界でも日本でも、格差と貧困の拡大、地球環境の悪化、異常気象と食料問題など、さまざまな問題がコロナ禍でより深刻化してきています。岩手県では今後、少子高齢化、過疎化がさらにすすみ、買い物など日々のくらしに不便を感じる人・地域が広がります。

この10年、私たちは協同の力で、東日本大震災からの復興支援と「だれもが安心して暮らせる地域・社会」をめざし、事業と活動をすすめてまいりました。これからの10年も、組合員の協同の力で、くらしを多彩にサポートする事業や活動をすすめて、「私のくらし・地域に生協があってよかった」と多くの組合員が思える生協をめざしていきたい…。そして、SDGsが掲げる「だれ一人取り残さない」世界の実現をめざし、世界の人々と力をあわせ、持続可能な地球を子どもたちに手渡すために、みんなで取り組んでいきたい……。こうした思いを込めて、新しく策定した「2030年ビジョン」では、私たちがめざすこととして「ともにつくるくらしと未来」を掲げました。これからの10年、だれもが安心して暮らせる地域・社会をめざし、そのあゆみをすすめてまいります。

みなさまからのご支援、ご協力に心から感謝を申し上げますとともに、今後もいっそうのご指導、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合
理事長
飯塚 明彦

特集

「助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心」をめざして いわて生協 2020 年ビジョン到達点と 2030 年ビジョン

いわて生協では、東日本大震災の困難を克服した 2013 年度から、多くの組合員の話し合いをもとに策定した「2020 年ビジョン」(2013～2020 年)の実現に取り組んできました。「だれもが安心して暮らせる地域・社会づくり」をめざしたこの 8 年間の取り組みをふりかえります。

2020 年ビジョンで実現できたこと ※数値は 2012 年度末→2020 年度末

共同購入事業

毎日の暮らしをサポート

共同購入利用者はこの 8 年間で 1 万 6 千人増え、世帯加入率は 14.5%に。要望にこたえて夕食宅配サービスを開始し、全県に配達エリアを広げ、毎日の暮らしを支えています。

- 共同購入利用者
6万2千人→7万8千人
- 夕食宅配サービス
1日53食(13年度スタート時)
→3千食



店舗事業

4店舗をオープン、 キャッシュレス決済拡大

ベルフ八幡平、コープ花巻あうる、ベルフ北上、ベルフ魚菜市場の4店舗をオープン。電子マネーやスマホ決済などキャッシュレス決済を導入し利便性を高めました。

- 店舗数
12店舗→16店舗



葬祭事業

セリオホール11会館に

組合員の要望にこたえ、充実設備のセリオホールを6館建設、1館を増設し11館に。施行地域は盛岡地域に加え、沿岸や県南地域にも広がりました。

- セリオホール
4会館→11会館
- 施行件数
925件→1,375件



環境の取り組み

「原発に依存しない事業と暮らし」を拡大

風力発電の設置など再生可能エネルギー発電の電力を積極的に調達。電気小売事業「コープのでんきCOCOENE」も開始し、「原発に依存しない事業と暮らし」を広げました。



福祉事業

小規模多機能型居宅介護をスタート

介護・福祉センターを移転し、小規模多機能型居宅介護をあらたに開始。生涯をとおして暮らしを支える事業のつながりを実現しました。



子育て応援

子育て層を事業・活動でサポート

子育て応援活動「ハピママコープ」をはじめ、「はじめてばこ」「はじめて CLUB」など、子育て層の暮らしをサポートする取り組みがひろがりました。



復興支援活動

みんなの募金で支援活動を継続

東日本大震災や台風など、県内被災地の支援活動を継続しました。また支援への恩返しの意味も込めて、全国の災害支援にも取り組みました。



安心して暮らせる地域づくり

「高齢者見守り協定」など 行政との連携を強化

高齢者見守り協定(全市町村)、包括連携協定(滝沢市)、災害物資協定(花巻市)、「いわて消防団応援の店」登録など連携が広がりました。



組合員

県内世帯過半数が組合員に

みんなの仲間づくりで、組合員は5万8千人増に。世帯加入率は50.7%となり、「県内世帯の過半数が組合員」を達成しました。

- 組合員数
21万1千人→26万9千人
- 出資金
74億円→99億円



2018年、10年ぶりとなる北上の店舗「ベルフ北上」をオープン。



夕食宅配サービスは毎月2,900食をお届け。

2030年ビジョン 私たちがめざすこと ともにつくる 暮らしと未来

新型コロナウイルスにより、私たちのくらしや地域経済はきびしさを増し、また人とのつながりなども大きく変わりました。今後10年、岩手県では少子高齢化、過疎化がさらに進み、買い物など日々のくらしに不便を感じる人・地域が広がっていきます。

この10年、私たちは協同の力で、東日本大震災からの復興支援と、「だれもが安心して暮らせる地域・社会」をめざし、事業と活動を進めてきました。これからの10年も、みんなの協同の力でくらしを多彩にサポートする事業や活動をすすめて、「私のくらし・地域に生協があっただけよかった」と多くの組合員が思える生協をめざします。

そして、SDGsが掲げる「だれ一人取り残さない」世界の実現をめざし、世界の人々と力をあわせ、持続可能な地球、日本、地域づくりに貢献できる取り組みをすすめていきます。



移動店舗「にこちゃん号」で被災地のくらしを支援。



「ふれあいサロン」は9年間の活動を終了しました。

第1章

復興支援活動

「がんばろう！岩手 築こう未来」

変化する被災地の要望に寄り添い、東日本大震災被災地での支援活動を継続しました。また全国の自然被害への支援にも、組合員や全国の生協と協同して取り組みました。

東日本大震災支援活動

「買い物支援」「なりわいづくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」「震災を風化させない活動」の4つの柱にそって取り組みました。

毎日のくらしを支える買い物支援 10年間で69万人が利用

移動店舗と無料お買い物バス 7万9千人利用

移動店舗「にこちゃん号」は、組合員の募金と全国の生協の支援で2012年から開始。現在も4台が宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の災害公営住宅など70か所に運行しています。宮古市、山田町から店舗へ運行する「無料お買い物バス」と合わせ、2020年度は7万9千人（前年比111%）が利用しました。10年間ではのべ69万人が利用し、買い物が不便な被災地のくらしを支えています。

共同購入「復興支援サービス」などは7千人利用

共同購入では、個人宅配手数料を減免する支援を継続しました。沿岸被災地（内陸避難の方含む）対象の「復興支援サービス」と、2019年台風19号被災者が対象の「新・被災者サポート値引き」を実施。2020年度、2つの制度の登録人数は7,658人（前年比105%）となりました。

「復興支援サービス」の10年間の減免額は、約5億円にのびます。

被災地メーカー・生産者を商品利用で応援 10年間で37億円の利用

事業での商品利用おすすめ 3億3千万円

被災地の生業・仕事づくりを応援しようと、被災地のメーカー・生産者の商品を店舗・共同購入で積極的におすすめしました。2020年度の利用は3億3千万円（前年比72%）、10年間では37億6千万円となりました。

被災地の手づくり品販売 10年間で5千万円

被災地のグループや福祉作業所の手づくり品販売を10年間継続し、20年度で終了しました。2020年度の利用は220万円（前年比92%）、10年間では5,510万円の利用となりました。

いわて生協が所有・管理する南昌荘では、10年間で30種類以上の商品を取り扱い、この間の利用は203万円に上りました。

多くのボランティアで笑顔と元気を届ける活動 10年間で3万8千人参加

9年間で3,631回開催 「ふれあいサロン」

「お茶を飲みながらほっとしてほしい」と、2011年6月から開催してきた「ふれあいサロン」は、陸前高田市2会場のお別れ会を開催し、活動を終了しました。この9年間では3,631回開催し、3万615人が参加。1万6,289人のボランティアが活動を支えました。



「食の支援」を継続

「ひとりになって料理をする気になれない」などの声に、食を大切にしている生協として何かしたいとの思いから、食の支援に取り組んでいます。参加者みんなで食事をつくって食べる「生協料理サロン」は2020年度コロナ禍で開催できませんでしたが、その代わりに味の素ファンデーション提供の「健康レシピ」を配布し喜ばれました。



これからも東日本大震災を忘れない 10年間で3億2千万円の募金

「ふれあいサロンキットづくり」を継続

「ふれあいサロンキットづくり」は、手芸材料のキットを一人分ずつセットする活動です。「ふれあいサロン」は終了しましたがキットづくりの活動は継続し、2020年度は901セットを沿岸地域での自主的な集まりや社会福祉協議会に提供しました。

復興支援募金1,018万円に

支援活動を支える「復興支援募金」は、共同購入・店舗を中心に組合員から募金が寄せられ、6年連続で1千万円を超えました。募金活動は2020年度で終了とし、今後は「復興支援活動募金」をもとに支援活動を継続します。



復興支援募金収支報告

募金	2020年度	累計
組合員支援募金	1,018万6,574円	1億3,894万6,765円
全国の生協からの募金	1,005万4,656円	1億7,756万3,737円
計	2,024万1,230円	3億1,651万0,502円

使徒	2020年度	累計
物資支援、買い物支援	—	647万1,269円
宮古・山田お買い物バス	1,243万2,640円	7,481万1,168円
生産者・メーカー支援	—	268万6,298円
被災地生協まつり、復興まつり	—	523万6,345円
CVCバスボランティア・炊き出し	—	2,400万0,097円
ふれあいサロン	21万7,603円	5,493万8,840円
文化企画、リフレッシュ企画	—	1,998万9,354円
グループ活動補助	139万3,822円	1,595万8,528円
被災地支援活動助成金	123万2,250円	1,171万9,890円
その他	47万0,204円	1,506万7,621円
復興応援バスツアー	—	35万1,140円
計	1,574万6,519円	2億3,123万0,550円

収支	2020年度	累計
残金は「復興支援活動基金」へ	449万4,711円	8,527万9,952円

全国の被災地支援にも取り組みました

2020年7月豪雨災害支援募金

2020年7月に発生した豪雨により、九州を中心に全国で大きな被害が発生しました。組合員による支援募金に取り組み、233万円が寄せられました。全

国110生協からの募金総額は6億8千万円となり、9つの県への義援金、支援活動に取り組む3団体と5生協に支援金として贈りました。



おいしさで人気の「アイコープ県産大豆豆腐」。



「アイコープ味付ねりくるみ」「味付ねりごま」の改善に、組合員が参加。

第2章

食の取り組み

岩手の豊かな農林水産物を地元で消費する「地産地消」を広げようと、県内企業や生産者、組合員と一っしょに取組んでいます。また、安全な商品をお届けするため、全国・東北の生協と協力して取組んでいます。

アイコープ商品・アイスタイル商品

地産地消をめざすオリジナルブランド商品

アイコープ・アイスタイル商品は、いわて生協が開発・供給しているオリジナルブランド商品です。できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、主に岩手県内のメーカーと共同で開発した商品です。開発には、組合員も参加しています。

東日本大震災以降は特に、「地場産品の利用を広げることで岩手を元気にしよう」と、利用普及に積極的に取組んでいます。

開発のコンセプト



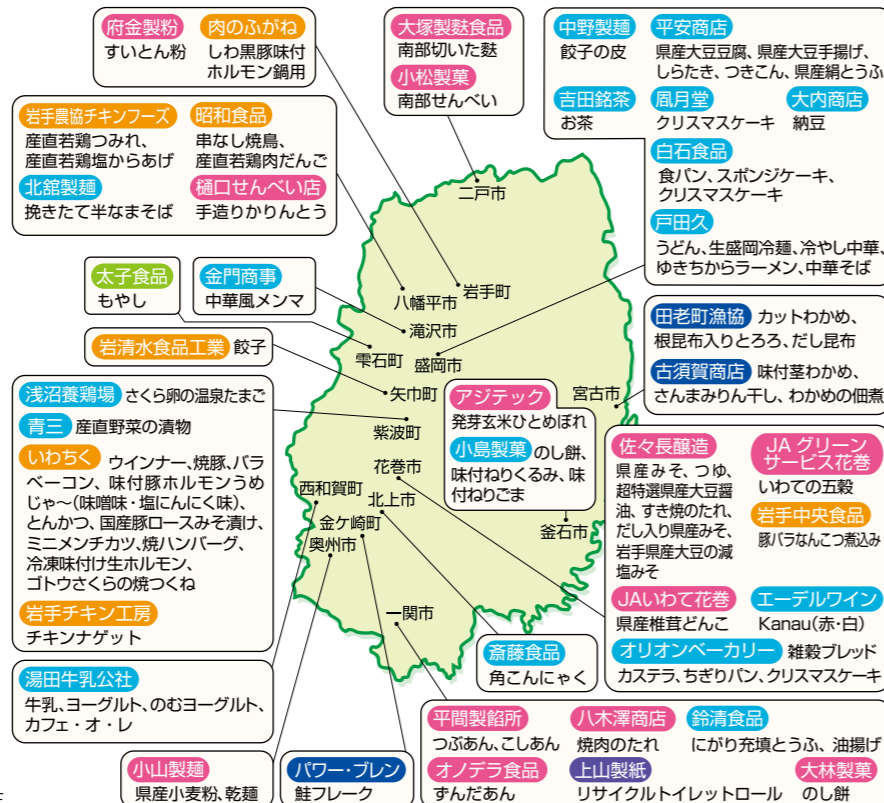
できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内品質の商品です。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。



食品添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たしながら、より求めやすい価格を重視した商品です。

2020年度「アイコープ商品」「アイスタイル商品」の実績

- アイコープ商品・アイスタイル商品数 **140品目**
- 2020年度供給高 **10億7,525万円** (前年+9,064万円、103.3%)
- 製造委託メーカー **53社**



2021年2月現在

アイコープ商品12品目を開発・改善

2020年度は、アイコープ商品3品目を開発し、9品目を改善しました。開発・改善には組合員が参加し、よりよい商品にしようと意見を出し合いました。

改善 アイコープ味付ねりくるみ・ねりごま

釜石コープの組合員が改善に参加し、ねりくるみの味を見直しました。また、容器をカップからパウチに変更するのに伴い、パッケージも検討しました。製造は小島製菓（釜石市）。



30周年記念商品を15品供給

いわて生協30周年を記念して、アイコープ商品の記念パッケージや増量品など、15品を供給しました。アイコープ商品のよさと利用を広げようと取組みました。

記念商品（一例）

アイコープ産直生協牛乳 発売した1975年当時のパッケージを復刻しました。「なつかしい」「かわいい」と利用が広がりました。



地域の特産品利用を広げる取り組み

岩手の豊富な農林水産物や商品の利用を広げようと、幅を広げた地産地消の取り組みとして、行政や生産者団体などの協力をいただき、県内の特産品をご案内しています。2020年度は「にしわが山の市場」（ペルマ牧野林で1回）を開催しました。また、コロナ禍で影響を受けている地元メーカーを応援しようと、宮古商工会議所との共同企画「三陸宮古魚介づくし」を共同購入で2回開催。517万円の供給につながりました。



商品のよさと利用を広げる 組合員の活動

組合員活動では、コロナ禍で「コープのつどい」は開催できませんでしたが、自宅で参加できる「ためしてコープ」を通して、コープ商品や産直30周年商品のよさ、こだわりをお知らせしました。

子育て層に商品のよさを知らせる取り組みとして、子育てサポート「はじめてCLUB」会員を対象に商品モニターに取り組み、208人が参加。商品の利用につながりました。

安全な商品をお届けするための取り組み

工場点検や商品検査の取り組み

食の安全を確保し、食品事故を未然に防止しようと取り組んでいます。2020年度はアイコープ商品製造委託メーカーの工場点検（56工場）、商品検査室での商品微生物検査（2,952件）を行いました。またコープ東北と連携し、重大商品事故につながるお申し出への監視対応などに取組みました。

れも検出限界値（10Bq/kg）未満でした。

2015年度以降は全品検出限界値未満であることから、2020年度で検査を終了しました。

放射性物質自主検査を10年実施

原発事故後、いわて生協は国や県に放射性物質の検査・対策の強化を求める一方で、行政が検査しない産直品・アイコープ商品、また行政検査の補完として市場流通品の検査に取り組んできました。

2020年度はアイコープ商品・アイスタイル商品、産直品、市場流通品の計153品目を検査し、いづ

日本生協連「食事の放射性物質摂取量調査」を10年継続

日本生活協同組合連合会が実施している食事調査は、2020年度は全国17都県176世帯（いわて生協8世帯）が協力しました。その結果、すべてのサンプルで放射性セシウムは検出限界値（1Bq/kg）未満でした。原発事故後10年行ってきたこの調査は、2020年度で終了しました。10年間の検査数は3,005件、2014年度以降は全サンプル検出限界値未満でした。



産直生産者「東長岡果樹生産組合」の川原さん（紫波町）



収穫体験をとおして組合員と生産者が交流。

顔とくらしの見える「産直」



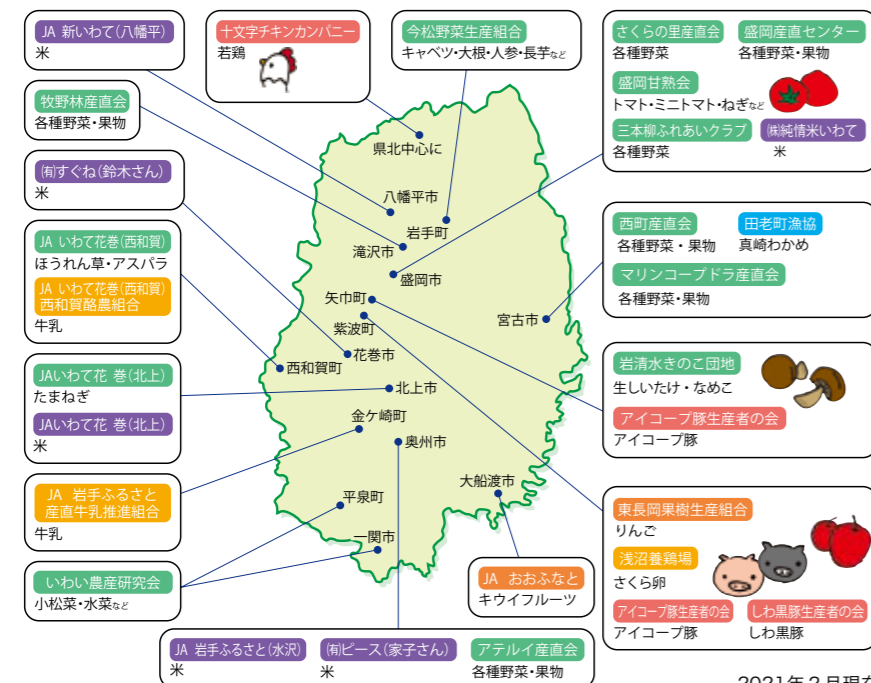
組合員と生産者が交流し、日本の農林漁業を守る運動

いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な農林水産物を求める組合員と、農林漁業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい農水畜産物を作りながら、日本の食糧と農林漁業を守っていく運動です。

2020年度「産直」の実績

- 供給高
25億6,945万円（前年+ 2,831 万円、102.2%、供給構成比 12.4%）
- 産直提携団体
29団体
- 農産産直コーナー設置店舗
9店舗

県内29産地と産直提携



子育て世代の産地見学・交流に力を入れています。

いわて生協の産直三原則

- ①産地と生産者が明確であること
- ②栽培、飼育方法が明確であること
- ③組合員と生産者が交流できること

いわて生協の産直基準

- ①組合員の多様な参加を強め、組合員の願いを商品と事業に反映します。
- ②岩手の農林畜水産業を守り、その発展に貢献します。
- ③組合員と生産者が「対等」「共同」「公平」の立場で、課題へ取り組みます。
- ④産地・生産者、生産・流通方法を明確にします。
- ⑤記録・点検・検査を行い、より確かな産直商品を届け続けます。
- ⑥持続可能な生産とともに、事業の環境負荷低減にも取り組みます。

産直野菜農薬基準

- ◆排除農薬／使用禁止する11農薬
NAC、ジメトエート、2.4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン
- ◆排除目標農薬／排除に向けて計画的に努力する6農薬
キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、バラコート、リニユロン、アトラジン

産直30周年商品を中心に「産直収穫祭」を店舗・共同購入で開催

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗と共同購入で毎年開催。生産者と組合員、職員がいっしょにおすすめ活動に取り組んでいます。2020年度は、産直30周年を迎えたさくら卵、アイコー豚、若鶏を中心に取り組みました。セールチラシや広報誌「HELLO コープ」に産地紹介やレシピを掲載し売り場とも連動。またプレゼントキャンペーンにも取り組み、収穫祭での利用を広げました。



組合員と生産者の交流活動を多彩に

産直生協牛乳生産者へタオルを贈呈

産直牛乳の産地を組合員家族がたずねる「産直生協牛乳ふるさと訪問」では、産直牛乳の生産者へ感謝と応援を伝えようと、搾乳用のタオルを組合員から生産者へ贈っています。2020年度は、コロナ禍で交流活動が中止となりましたが、組合員の代表が公開安全確認会の際にタオルを贈呈しました。



「タオルは毎日使うのでありがたい」と生産者。

産直米交流会

奥州市江刺区の会場で2回開催し、72人が生産者の指導のもと、稲刈りの体験や田んぼの生き物観察などを行いました。参加した組合員からは「生産者の大変さがわかった」「お米を大事に食べたい」と好評でした。



田んぼのいきもの観察で、豊かな自然環境でお米が育てられていることを知りました。

りんご盗難被害利用とお見舞いで生産者を応援

産直りんご生産者の「東長岡果樹生産組合」では、2020年11月、収穫直前のりんごが大量に盗まれる被害が発生しました。いわて生協では、「利用して生産者を応援しよう」と組合員に呼びかけ、例年以上の利用となりました。また組合員の代表が、お見舞金と広報誌「HELLO コープ」に寄せられた応援メッセージを生産者にお届けし、「これからもおいしいりんごを待っています」と伝えました。



組合員が栽培方法などを点検する「公開安全確認会」「業務確認会」

産直品の栽培・飼育方法などの約束事が守られていることを、組合員も参加して確認する「公開安全確認会」を2003年度から毎年開催。2020年度は29産地に組合員63人（前年比57%）が参加し、生産者の努力への理解が広がりました。

「業務確認会」は、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを組合員・生産者が確認する取り組みとして2004年度から実施。店舗など7事業所を組合員15人が確認しました。



岩手の食と農、くらしを守る運動

いわて生協は、日本の農林漁業、食の安全・食料を守る運動に取り組んでいます。2020年度は「いわて食・農ネット」や県内の諸団体といっしょに、コロナ禍や気候変動による食への影響について学習したほか、食料自給率向上や自由貿易協定について自治体・農協要請行動に取り組みました。



「フードドライブ」の取り組みをスタート。



新たに子ども食堂を支援する取り組みをはじめました。

第3章

社会貢献活動

「だれもが安心して暮らせる社会・地域」をめざして、行政や諸団体のみなさんといっしょに取り組みをすすめています。



生活困窮者支援「フードドライブ」 「子ども食堂支援」「ささえあい募金」開始

いわて生協 30 周年を機に、生活困窮者への新たな支援の取り組みを開始しました。

商品を購入し寄付いただく「フードドライブ」を、店舗や共同購入で9～11月に実施。組合員から3千点の商品が寄せられ、9市の社会福祉協議会へ贈呈しました。「コロナの影響もあり、生活相談が増えている中、手軽に食べられる食品の寄付はとてありがたい」との声が寄せられました。

「子どもの居場所ネットワークいわて」と協力し、店舗での購入代金を2割引きにする「子ども食堂割引支援」を10月から開始。2020年度は6団体（対象1,277人）がフードパントリー（食材配布）に取り組み、19万円を助成しました。

また、子ども食堂割引支援の財源となる「ささえあい募金」を店舗・共同購入で呼びかけ、62万円が寄せられました。



フードドライブで寄せられた食品を社会福祉協議会へ贈呈。

コープフードバンク 12団体に5.1トンの食品提供

東北の生協が運営する「コープフードバンク」では、お取引企業から余剰食品などの無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。

2020年度は、12団体に5.1トン（前年+2.4トン）の食品等を提供しました。活動を支えるサポーターは個人328人（前年+61人）、法人6社に増えました。東北全体では350団体に88.9トンを提供。サポーターは1,041人、109社となっています。

フードバンク協定締結団体（締結順）

- ・宮古市社会福祉協議会
- ・大船渡市社会福祉協議会
- ・特定非営利活動法人くらしのサポーターズ
- ・岩手保護院
- ・花巻市社会福祉協議会
- ・北上市社会福祉協議会
- ・釜石市社会福祉協議会
- ・一関市社会福祉協議会
- ・奥州市社会福祉協議会
- ・特定非営利活動法人インクルいわて
- ・二戸市社会福祉協議会
- ・ぬくまる食堂実行委員会

法人会員（岩手県内）

- ・(株)事務機商事
- ・(株)モリレイ
- ・丸庄クリーニング(株)
- ・(有)アドオフィスミュー
- ・メフレ(株)
- ・白石食品工業(株)

首長懇談会を13市町と開催

だれもが安心して暮らせる地域づくりをめざして、2020年度も13市町で首長懇談会を開催しました。コロナ禍で急増した生活困窮者への支援をテーマに懇談しました。また3町へ表敬訪問を行い、いわて生協30周年をお知らせしました。

自治体・関係団体の審議会で提言

住みよい地域づくりをめざし、組合員理事を中心に岩手県や県内市町、関係団体の審議会や委員会に委員として参加し、生活者の視点で提言を行っています。

2020年度は「岩手県水産審議会」「岩手県食の安全安心委員会」など24の委員会に参加しました。

子育て応援「はじめてばこ」 2,753件のお申し込み

岩手に生まれた赤ちゃんを祝福し、健やかな成長を願って、メモリアルボックス「はじめてばこ」を応募いただいた全家庭に贈る取り組みを2019年にスタート。いわて生協とめんこいテレビが主催し、岩手県など5団体の後援、22の企業、団体から協賛をいただいています。2020年度は2,753件のお申し込みとなり、開始から1年半で岩手県内に生まれた赤ちゃんの半数にお届けしました。



高齢者見守り活動 異変対応は9年間で132件に

いわて生協は県内の全市町村と協定を締結し、共同購入（班・個人宅配）、夕食宅配サービスを利用される高齢者を対象に、配達時気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口へ連絡する「見守り活動」を行っています。

異変への対応事例は2020年度15件、9年間で132件となり、組合員ご家族などから感謝の声をいただいています。

「いわて消防団応援の店」4万人が利用

消防団員のみなさんの活動を支え、団員が増えるよう協力していこうと、「いわて消防団応援の店」に全店舗が登録しています。組合員に加入した上でレジで「消防団員カード」を提示すれば、5%分を割引くサービスを提供しています（1日・15日を除く）。2020年度はのべ4万人がこの制度を利用しました。



認定ステッカーを店頭に掲示しています

被災地支援活動助成金 5年間で1千万円を超える助成

多面的な被災地支援活動を実現するため、被災地で支援活動に取り組む団体・NPOを支援する助成金制度を2016年度に設立しました。2020年度は6団体に計123万円を助成しました。これまでの5回で助成総額が1,100万円を超えました。



被災地支援活動助成金贈呈団体（活動地域）

- ・もっちいと森の仲間たち（陸前高田市、大船渡市、大槌町）
- ・一般社団法人ちーむ麻の葉（陸前高田市）
- ・陸前高田こども図書館ちいさいおうち（陸前高田市）
- ・北浜老人クラブ（山田町）
- ・特定非営利活動法人きらりんきっず（陸前高田市）
- ・一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校（釜石市）

障がい者のくらしや活動を応援

視覚障がいのある組合員の買い物支援として、共同購入事業では、カタログを読み上げたCDをお届けする「リーディングサービス」を実施。現在45人が利用しています。

障がい者のスポーツ活動を応援しようと、「スペシャルオリンピックス日本・岩手」のオフィシャルサポーター、「岩手県障がい者スポーツ協会」の賛助会員として協力しました。また、多様な人々がともに働き続けられる生協をめざし、障がい者雇用を積極的にすすめています。2020年度は新たに11人を採用し、51人の雇用（前年+3人）となりました。

ユニセフ募金に協力 これまでの募金総額は1億3千万円

世界の子どもの命と健康を守るユニセフ募金に取り組んでいます。店舗・共同購入での募金や書き損じハガキ募金に加え、店舗で回収するペットボトルキャップの益金を、ユニセフ募金に寄付しています。

2020年度の募金は262万円（前年-65万円）、これまでの募金総額は1億2,786万円となりました。



気軽に立ち寄りすることができる「コープサロン」。



多彩なイベントで子育てを応援「ハピママレッスン」。

第4章

組合員の活動

「助けあい、支えあい、ともに作る暮らしの安心」をめざして、組合員みんなで取り組みをすすめています。



核兵器のない世界を求めて 平和運動



「ヒバクシャ国際署名」は10万7千筆が集まりました。

いわて生協では「暮らしの基本は平和があってこそ」との思いから、平和を守る運動に取り組んでいます。

2020年度は、NPT再検討会議への代表派遣を予定していましたが、コロナ禍で会議が延期となり、中止しました。2017年度から取り組んできた「ヒバクシャ国際署名」は、最終10万7,748筆となり、全国1,184万筆とあわせて国連に提出しました。こうした世界的な運動により、2021年1月には「核兵器禁止条約」が発効しました。

平和の大切さを学ぶ「ピースアクション in ヒロシマ」はオンラインで開催し、23人が参加しました。

また、平和憲法・9条をまもる取り組みとして、諸団体と一緒に学習会を開催しました。



高松の池にある平和祈念像「望み」は、1995年に2万人を超える県民の募金で建立されました。

子育て応援活動「ハピママコープ」に 1千人参加



オンラインイベントを新たにスタートしました。

子育て層（特に乳幼児を持つママ）の願いにそった活動「ハピママコープ」は、子育て層が生協や商品を知る機会となっています。

2020年度は子育てママ対象のイベント「ハピママレッスン」を、14会場に拡大。盛岡・滝沢・花巻・北上・奥州・一関・宮古・釜石・大船渡・二戸・久慈・矢巾町で131企画を開催し、533組1,132人（前年比49%）が参加しました。コロナ禍で休止や参加人数の制限をせざるを得ず、参加が減りました。

一方で、コロナ下でも子育て層がつながる場を作ろうと、「ハピママレッスンオンライン企画」をスタートしました。32企画に155人が参加し、「子どももリラックスして参加できる」と好評でした。

乳幼児親子の無料の遊び場「ハピママひろば」は、活動を終了しました。

新たな組合員参加形態を取り入れ運営

2020年度はコロナ下のため、新しい運営参加を工夫し取り組みました。組合員同士が集まる「コープのつどい」に代わり、WEBや書面とおして一人または3人以上で参加できる「ためしてコープ」を開催。コープ懇談会でもWEB開催に取り組み、これまで参加できなかった方や若い世代の参加につながりました。

運営参加の場		参加人数(前年比)
組合員の集まり	ためしてコープ	5,676人(81%)
	コープ懇談会	931人(45%)
計画づくり	コープ総代会	431人(29%)
	計	7,038人(26%)

シニア向けイベントを開催

シニア世代の願いにそった活動「大人企画」の開催が広がりました。盛岡・滝沢・八幡平・奥州・北上・一関・宮古・釜石・大船渡・二戸市の13会場で102回開催し、884人（前年比97%）が参加。体操や手芸など多彩なテーマで行っています。



暮らしを守る運動を推進

灯油運動

灯油の適正価格と福祉灯油の拡充を求めて、岩手県生協連などといっしょに、岩手県と岩手県議会に要請・請願を行いました。こうした取り組みもあり、岩手県から沿岸12市町への福祉灯油助成が10年連続で実施されました。



岩手県議会に福祉灯油の実施を求める請願を行いました。

消費税5%への減税を求める運動

いわて生協は、組合員の暮らしと地域を守る立場から、消費税増税に反対してきました。2020年度は「コロナ禍で格差と貧困が広がる今こそ、消費税を5%に減税すべき」との主張を理事会で決定。学習と声を寄せ合う運動をすすめました。また、「暮らしを考えるネットワークいわて」と共同で学習会や政党への要請に取り組み、組合員から寄せられた声を届けました。

安心して暮らせる地域をめざして 福祉活動に4千人参加

コープ暮らしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから、組合員どうし助け合う有償ボランティア組織として1992年に発足。高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。2020年度は15市町11支部に会員1,341人（前年比102%）、活動時間2万3,549時間（前年比88%）と、コロナ禍で活動時間が減りました。



コープサロン、ふれあいお茶っこ会

地域でつながり交流する場として「コープサロン」「ふれあいお茶っこ会」を開催しています。

「コープサロン」は、気軽に立ち寄り一息つける場として、盛岡・滝沢・八幡平・宮古・大船渡・花巻・奥州・一関市の11会場で77回開催。745人（前年比94%）が参加しました。

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共同で開催するミニデイサービスです。盛岡地域15会場で80回開催し、1,099人（前年比52%）が参加しました。新型コロナウイルスの影響で回数・参加とも前年を下回りました。



ベルフ仙北（盛岡市）をリニューアル。



共同購入（班・個人宅配）の利用者は7万8千人に広がっています。

第5章

くらしを支える事業

店舗事業

くらしに役立つ「地域一番のお店」に

組合員みなさんに満足いただける売り場をめざして取り組んでいます。簡単な調理でおいしく食べられる商品、適量目の品揃え充実、健康志向や個食に対応した商品の取り扱いを増やしました。

ベルフ仙北、山岸、まつそのの3店舗をリニューアルしたほか、ベルフ青山の食品売り場の品ぞろえを改善しました。「新しい売り場で買い物がしやすい」と好評です。



高齢者へのお買い物支援9万人が利用

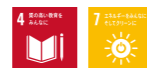
無料お買い物バス

盛岡地域5店舗への無料バス、宮古市・山田町から宮古店舗への無料お買い物バス、マリコブドラと宮古駅間のシャトルバスの運行を継続しました。コロナの影響でバスの利用が減少し、お買い物バス利用者数はのべ5万3千人（前年比87%）となりました。

お買い物配達サービス

お店で購入した常温の商品をご自宅にお届けする「お買い物配達サービス」は、年間3万7千人（前年比88%）が利用しました。

ふだんのくらしに役立つ事業、生涯をとおして組合員のくらしに役立つ事業をめざして、取り組みをすすめました。



キャッシュレス還元4億5千万円に

国の「キャッシュレス・消費者還元事業」に登録し、店舗事業は3億5,543万円、いわて生協全体では4億5千万円の還元を実現。きびしさを増す家計を応援しました。スマホ決済「コープペイ」や「ペイペイ」、電子マネー「アイコープ・カード」、クレジットカードのキャッシュレス構成比率は42.3%（前年+0.1%）でした。



組合員の声 2万1千件を仕事改善に

お店の売場などで組合員から寄せられた、商品や店舗運営に関する声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2020年度は2万1,675件の声が寄せられました。

区分	2020年度	2019年度	増減
意見・要望	8,739	7,514	+1,225
お問い合わせ	6,974	5,294	+1,680
おほめ・感謝の声	2,394	2,247	+147
商品・運営への苦情	1,187	1,235	-48
その他	2,381	2,154	+227
合計	21,675	18,444	+3,231

共同購入事業

毎週の利用者は7万8千人に増加

商品案内チラシを見て注文いただいた商品を翌週お届けする共同購入（班・個人宅配）は、コロナ禍で宅配需要が高まり、利用者は7万7,753人（前年比106%）、県内世帯の14.6%（前年+0.3%）の利用に広がりました。

組合員満足度の向上をめざし、食品カタログでは、下ごしらえ済のミールキットや健康志向商品の品揃えを増やしました。また国の「キャッシュレス・消費者還元事業」へ対応し、7,519万円の還元を実現しました。

夕食宅配サービスは20市町村で1日2,900食をお届け

週5回、カロリーや塩分に配慮したお弁当をお届けする「夕食宅配サービス」（2013年事業開始）は、「人気メニューウィーク」などの取り組みで食数を増やし、20市町村で1日2,923食（前年比117%）の利用に広がりました。

2020年度「土日おかず弁当」を要望にそって開始し、1週間の食事を提供できるようになりました。



夕食宅配サービス提供地域（一部展開地域を含む）

- ・盛岡市
- ・滝沢市
- ・八幡平市
- ・雫石町
- ・矢巾町
- ・紫波町
- ・花巻市
- ・北上市
- ・奥州市
- ・平泉町
- ・一関市
- ・二戸市
- ・一戸町
- ・久慈市
- ・宮古市
- ・山田町
- ・金石市
- ・大槌町
- ・大船渡市
- ・野田村

エネルギー事業

生協灯油は総額5,170万円を還元

2020年度は、原油価格の高騰を受けて生協価格の値上げ幅を最小限に抑えるプライスリーダーとしての役割を發揮しました。厳しい寒さとコロナ禍での巣ごもりから新規利用者と消費量が増え、配達量は3万1,290Kℓ（前年比106.7%）と増えました。

その結果、1～3月度の配達灯油について1ℓ2.5円の還元を実現。さらに「キャッシュレス・消費者還元事業」で2,171万円を還元し、組合員の家計に貢献することができました。

個人宅配配達料を1年間無料 子育て応援「はじめてCLUB」

2020年度より、子育て応援「はじめてCLUB」の新たな特典として、個人宅配配達手数料を1年間無料になるサービスをスタートしました。対象は1歳6か月までのお子さんがある組合員で、2020年度は2,518人が利用しました。

個人宅配サポート制度で高齢者や子育て世代のお買い物を応援

個人宅配では、高齢の方や障がいをお持ちの方、子育て中の方などを対象に、配達料を優遇する「サポート値引き」制度を設けています。2020年度は3万1,863人（前年比102%）が登録、個人宅配利用者の60%が制度を利用しています。

個人宅配サポート制度の登録人数

制度	登録人数	個配利用者に占める割合
高齢者サポート値引き お一人が70歳以上の夫婦世帯、全員が70歳以上の世帯	12,103人	23%
復興支援サービス 新・被災者サポート値引き	7,658人	14%
子育てサポート値引き 母子手帳発行から満6歳までのお子さんがある方	4,336人	8%
障がい者サポート値引き ご本人またはご家族が障がい者手帳をお持ちの世帯	4,746人	9%
介護者サポート値引き ご本人またはご家族が介護認定を受けている世帯	3,020人	6%
合計	31,863人	60%

住まいと暮らしのサービス事業 3万9千人が利用

住まいと暮らしのサービスセンターは、地域の専門業者や施設と提携し、さまざまなサービスを組合員に提供しています。

2020年度は、コロナの影響で、ハウスクリーニングや通信教育の利用が増えました。一方で、提携施設で優待サービスを受けられる「組合員カード提示サービス」は利用が減少し、サービスの利用者のはのべ3万8,898人（前年比89.5%）となりました。



葬祭に関するあらゆることをサポートします。



店舗の独立型共済カウンターは「ゆっくり相談できる」と好評です。

コープのでんき「COCOENE」 契約件数は6,600件に

環境にやさしく、原発に依存しないくらしを広げようと、再生可能エネルギーを積極的に取り入れた電気の小売事業（2018年開始）に取り組んでいます。コープのでんき「COCOENE」は、再生可能エネルギー比率95%（2020年度計画値）でみらいにやさしい「ソフトでんき」、電気料金と再生可能エネルギー比率の両方に配慮したくらしにやさしい「コスパでんき」の2種類から選べます。

2020年度の契約件数は6,659件（前年+2,184件）と、計画を上回って広がりました。



共済事業

9千件の加入で契約件数11万件に

コープ共済は、全国の生協組合員の「助け合い」の制度として、手ごろな掛金で充実の保障を実現した保障のコープ商品です。

2020年度、コープ共済の新規加入は7,295件となり、契約件数は11万2,548件となりました（前年比102%）。ペルファ仙北に6店目の独立型共済カウンターを設置し、気軽に相談しやすい環境を広げました。

9億7千万円の共済金をお支払い

コープ共済は、共済金のお支払いを大切に、請求漏れが発生しないように共同購入・店舗を通じて加入者に声かけを行っています。2020年度の共済金のお支払いは、1万3,092件、9億7,035万円（前年比95%）。1日あたり35件、265万円となり、「組合員のくらしを支える助け合い」の役割を果たしています。

ランドセルカバー7,300枚を 新入学児へ贈呈

子どもたちの交通事故を減らそうと、「コーすけ入りランドセルカバー」を希望する県内の小学校に贈呈する活動を、2015年度から行っています。2020年度は県内小学校の75%にあたる228校の新入学児童へ、7,298枚を贈呈しました。

シニア世代向け「健康づくり教室」開催

コープ共済連の協賛を受けて、キャリアジススポーツ講師によるシニア世代向けの運動教室「健康づくり教室」を開催しています。3か月6回コースで、運動習慣の定着により健康寿命を延ばすことをめざしています。

2020年度は9会場で開催し、516人が参加。「コロナでいろいろ中止になる中、開催はうれしい」との声が寄せられました。



葬祭事業

11ホールで1,375件を施行

いわて生協の葬祭事業は、「人生最後の儀式だからこそ、自分たちがつくる生協で」「納得できる適正価格で」という組合員の願いから生まれ、1993年から事業を行っています。2020年度は県内11のセリオホール（葬祭会館）で、1,375件（前年比97%）の葬儀を施行しました。コロナ禍でも故人にふさわしいお見送りが安心してできるよう、広い会場をご用意するなど取り組み、利用者から「コロナ禍で心配でしたが、心残りなく見送ることができた」と感謝の声が寄せられました。

福祉事業

小規模多機能型居宅介護事業 のべ209人が利用

介護事業への要望の高まりを受けて、2018年度から、24時間・365日の在宅支援を行う「小規模多機能型居宅介護事業」を行っています。2020年度、小規模多機能型居宅介護「あい長橋町」には、40件の相談が寄せられ、のべ209人が利用しました。



「あい長橋町」では季節の行事を大切にしています。

「セリオ積立」1万4千件に

いつか訪れる「もしもの時」に備えて、計画的に積立を行っていく「セリオ積立」も、組合員の要望から生まれた制度です。2020年度は、新たに1,057件の申し込みをいただき、総件数は1万3,724件（前年比109%）になりました。



コープ介護・福祉センター「あい」 サービス提供人数は6千人に

コープ介護・福祉センター「あい」が行う在宅介護3事業の2020年度の利用人数は、居宅介護支援2,225人（前年比89%）、訪問介護1,535人（前年比103%）、福祉用具レンタル2,392人（前年比106%）となりました。コロナ影響もあり、利用が伸び悩みました。



南昌荘 開館20周年を迎えました

1885年（明治18年）建造の南昌荘は、保存を望む多くの声にこたえ、いわて生協が保有し、維持管理と公開を行っています。建物は盛岡市の景観重要建造物に、庭園は盛岡市の保護庭園・国の登録記念物に指定されています。

2020年に南昌荘は開館20周年を迎えました。これまでの入館者数は32万人を超え、地域の方や観光客のみなさんに親しまれています。2020年度はコロナ禍で臨時休館や催事中止があり、年間の入館者数は1万人（前年比79%）にとどまりました。

